

# SDGsライオンズフェスタ2023

～いのち輝く未来へ!!～

ライオンズクラブ国際協会 335B 地区は、未来を創る子供たちに様々な体験を通じてSDGs活動に触れていただき、持続可能な明るい未来に挑戦する子供たち一人ひとりが輝けるフェスタを開催します。

日時 / 2023年11月23日(木祝) 9時～16時

場所 / インテックス大阪 3号館  
(コスモスクエア駅から徒歩約9分、トレードセンター前駅から徒歩約8分、中ふ頭駅から徒歩約5分)

住所 / 大阪府大阪市住之江区南港北1丁目5-102

参加費 無料

主催 / ライオンズクラブ国際協会335-B地区

MEET SPORTS

**編集後記** 地区広報(MC)委員長 徳山 性培

2022～2023年度最後の「ゆうあい」の発行となりました。広報(MC)委員長としての「ゆうあい」の取材は、モントリオール国際大会から始まり、地区ガバナー公式訪問、各種委員会や研修会・セミナー、地区やクラブのアクティビティなど多岐にわたり訪問させていただきました。その間、多くのメンバーと知り合い「友愛の絆」が生まれたことは、わたくしのこれからのライオンズライフにとって大きな財産になったと思います。

取材にご協力を賜りました皆様、そして広報(MC)委員の皆様へ厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

発行者：地区ガバナー 津田 勝之  
 発行：ライオンズクラブ国際協会335-B地区 広報(MC)委員会  
 編集者：委員長/徳山 性培(東大阪河内)  
 委員/岡 博文(大阪新梅田シティ)・石原 力(大阪城東)・佐々木 健(大阪ドリーム)・中尾 克雄(豊中南)・淀 大輔(枚方ローズ)・神崎 崇(和泉大阪)・成子 年男(岬)・小谷 耕司(那賀)・中川 彩(白浜南)・山野 桂祐(東大阪大東)・桑野 聡史(藤井寺)  
 事務局：〒541-0048 大阪市中央区瓦町 4-4-8 2F TEL / 06-6222-7331 FAX / 06-6222-7336 地区ホームページ / <https://www.lc335b.gr.jp>

# Together We can

LIONS CLUBS INTERNATIONAL  
 DISTRICT 335-B  
 OFFICIAL PUBLICATION



No. 275

2023  
 July 10



335-B地区専用  
 アプリQRコード

ライオンズクラブ国際協会335-B地区広報誌

ゆうあい

2022～2023 335-B地区 地区ガバナースローガン

温故知新  
 ～つなぐ未来～



地区ガバナー 津田 勝之

温故知新

ライオンズクラブ国際協会335-B地区  
**第69回 年次大会**  
 温故知新 ~つなぐ未来~

# 335-B地区 第69回年次大会

2023年4月15日(土)

代議員会・式典	大阪国際会議場
地区ガバナー晩餐会	リーガロイヤルホテル

ライオンズクラブ国際協会335-B地区  
 第69回年次大会  
**大会式典**  
 5階にお越し下さい  
 登録受付  
 12:30~13:30  
 大会式典  
 13:30~15:30  
 アトラクション  
 16:00~17:30

ライオンズクラブ国際協会335-B地区  
 第69回年次大会  
**大阪桐蔭高等学校  
 吹奏楽部  
 「スプリングコンサート」**  
 5階にお越し下さい  
 受付  
 15:45~16:00  
 コンサート  
 16:00~17:30



ライオンズクラブ国際協会335-B地区  
 第69回年次大会  
**地区ガバナー  
 晩餐会会場**  
 リーガロイヤルホテル  
 3階「光琳」  
 18:00~20:00





## 1年を振り返って

地区ガバナー 津田 勝之

第69回335-B地区年次大会を皆様方のご協力により無事に盛大に開催できましたこと誠にありがとうございます。

今回の地区年次大会を開催するにあたり、代議員投票を初の事前ネット投票システムを取り入れさせていただきましたところ、再考するところもありましたが無事に行うことができました。代議員会の設営費と年次大会開催時間短縮に大変貢献できたと思います。

地区年次大会においても大会テーマとして「温故知新 ～つなぐ未来～」を掲げ、メンバー皆様の表彰、代議員会決議発表、地区ガバナーエレクト、次期第1副地区ガバナー、次期第2副地区ガバナーの発表、そして次期ホストクラブに地区旗の引き渡しを終えて少し肩の荷が下りた感がありました。

第2部においては大阪桐蔭高等学校によるスペシャルコンサートを行いライオンズメンバーやファミリー、一般の方々や各種団体の皆様、何よりもウクライナより避難されている約70名の方々をご招待し、立ち見が出るぐらい会場が満席になり大変感動的な年次大会になりました。

今年度は「温故知新 ～つなぐ未来～」の地区ガバナーズローガンのもと「すべての会員籍の会員満足度の向上、すべての会員籍の会員増強とインパクトのあるアクティビティを」とこの1年、地区運営を行ってまいりました。

会員増強については720名の新しいメンバーに入室していただきました。微増ですが純増を果たしメンバーを増やすことができました。新クラブは1クラブ、支部は12支部をエクステンションすることができました。アクティビティにおいては行政、市民、団体などと共に「海のSDGs in 友ヶ島」を開催しました。天候不順等もありましたがこれからのアクティビティの進む方向性を見出せたと思います。

また、ライオンズクラブ国際協会と共に両輪で我々メンバーが支援していくべきLCIFに対しても「1人の100歩より100人の1歩」を合言葉にピース100キャンペーンを展開したところ、全てのクラブがLCIFに対してご理解いただき100%となりましたこと誠にありがとうございます。

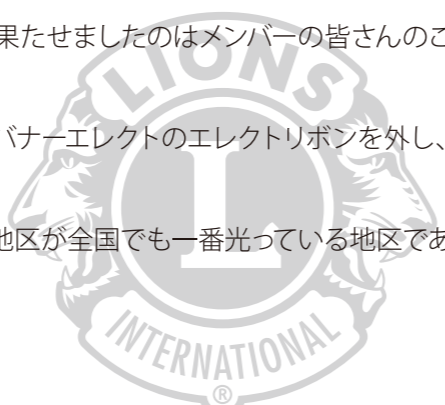
6月2日に9リジョン和歌山県下での線状降水帯による浸水被害がありましたが、地区アラート委員会やアラートチームがすぐに体制を組んでいただき、社会福祉協議会との連携を図り全リジョン挙げて支援いただいた事ありがとうございます。

この1年間休む間もなく地区ガバナー職をやりきる信念を持ち、それが果たせましたのはメンバーの皆さんのご支援ご協力があってのことです。重ねて御礼申し上げます。

日本時間7月12日午前1時にボストンの第105回国際大会で西尾地区ガバナーエレクトのエレクトリボンを外し、地区ガバナーを交代し地区ガバナー職を終了します。

第2副地区ガバナーより3年間見続けてまいりましたが、我が335-B地区が全国でも一番光っている地区であると思います。

伝統を守りこれからの新しいライオンズを作っていきます。



地区ガバナーエレクト 西尾 良典

335-B地区 地区ガバナーエレクト就任にあたりご挨拶申し上げます。  
第69回地区年次大会代議員会に於いてご信任頂き誠に有難うございました。また、津田地区ガバナーにおかれましては、今年度、本当にお疲れ様でした。地区へのご尽力に感謝いたします。

さて、COVID19もようやく終焉し、従来に戻りつつあります。しかしその間社会では多くの変化と多様性が増大し、全てがリセットされた感があります。

これはライオンズクラブにおいても同様です。この事態にパティ・ヒル次期国際会長も変革を求め世界を変えようとしています。今こそ我々は大きく変化した社会に対応すべく再構築する時が来たと考えます。

築する時が来たと考えます。

そこで次年度の地区ガバナーズローガンは「CHANGEプロジェクト ～未来への挑戦～」です。これは社会のニーズを測り、短期及び長期に計画性を持ちながら変革していくことを意味します。全てのことを見直し、長所は残し、短所は改善する、そして他団体とも協働し社会へ影響力を与え、斬新な視点でマーケティングを行い、ライオンズクラブのブランド力を上げ、次代と未来へつなげていくことに傾注したいと思います。基礎になるのは「我々は奉仕する」という崇高な精神です。これを基に変革を重ねていくことが重要です。幸いこの地区にはこれまでに培われた実績と伝統でその基礎は確立されており、さらに城邦国際理事を迎え、常に日本をリードする地区として未来を切り開く先駆者となるべきと考えます。

但し、これらの実現には新しい風を入れるべくメンバーの会員増強と大きな奉仕力が必要です。各クラブの皆様にはご理解とご協力をお願い申し上げます。次年度地区ガバナーとして335-B地区を形成された先輩方の恩恵に感謝しその伝統を重んじ、副地区ガバナー、キャビネット構成員と共に地区及び各クラブの発展と未来のために努めます。

皆様方の温かいご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



次期第1副地区ガバナー 古川 繁浩

第69回地区年次大会代議員投票に於いて、次期第1副地区ガバナーとして信任を賜り心より感謝申し上げます。

今年度、津田地区ガバナーと共にキャビネット五役として全23ゾーンの地区ガバナー公式訪問に同行し、各クラブの現状をクラブ三役の皆様から拝聴いたしました。

地域に沿ったアクティビティを考え実施して、困っているコミュニティがあれば適切に対応され「困った所にライオンがいる」を実感されている人たちがたくさんいるのではないのでしょうか。

しかし、クラブによってはメンバーの減少に歯止めがかからず、労力アクティビティができない状況にある事も把握できました。今後は複数のクラブが力を合わせ合同アクティビティの実施を促していかなければならないと思います。

次年度は西尾地区ガバナーを笹部第2副地区ガバナーと共に支えながら335-B地区の更なる活性化を目指してまいります。

メンバーの皆様方のご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。



次期第2副地区ガバナー 笹部 美千代

第69回地区年次大会におきまして、次期第2副地区ガバナーのご信任を頂き、身の引き締まる思いでございます。心よりお礼を申し上げます。

今年度、津田地区ガバナーズローガン「温故知新 ～つなぐ未来～」のもと、各クラブの強靱化を目指した会員増強、指導力による次世代への承継、そして他団体・市民を巻き込んだ友ヶ島清掃と素晴らしいリーダーシップで「Together We Can」メンバーと共に進められた1年であったと感じています。先輩ライオンが築きあげられた地区への誇りを持って、これから学んでまいりたいと存じます。

次年度は、西尾地区ガバナーそして古川第1副地区ガバナーにご教示いただきながら、誠心誠意その職責を努めて参る所存でございます。

皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

# 335複合地区年次大会

5月27日(土)

白浜会館



吉村弘吉 335複合地区ガバナー協議会議長



335-A地区  
浜原正豊地区ガバナー



335-B地区  
津田勝之地区ガバナー



335-C地区  
一盛広樹地区ガバナー



335-D地区  
濱本嘉代子地区ガバナー



## RC報告『社会変化や時代に対応し、ライオンズクラブが変わるべきと思うこと、また変わってはいけないと思うこと』



### 1RRC 吉田 敏明 (大阪北)

2019年12月初旬に新型コロナウイルスの最初の感染者が中国の武漢で報告されてから、1月中旬には日本での感染者が報告されました。

以来、3年半にわたり感染経路が確定されないまま今日に至りました。

人と人の接触が制限される中、ライオンズクラブの活動も制限され、クラブ内の活動をはじめ他のクラブ・メンバーとの交流、アクティビティの在り方に関してもマスクの着用・消毒など人との接触に注意を払うこととなりました。

その中で人が集まるとの会議を避けることができるWEB会議が採用されました。これにより人と接触することなく遠方からの会議参加、時間がない時の参加ができるようになりました。

今後はクラブ例会でも採用を検討できれば良いかと存じます。

これを教訓にあらゆる状況に臨機応変に対応できる柔軟性を持つことが大切です。

しかしながら、人と人の関りはFACE TO FACE顔を突き合わせての交流が大切であることを改めて思い知らされました。

クラブ内、他のクラブ・クラブメンバーとの交流、アクティビティの交流に関して5月8日からのコロナ感染症の5類移行を機に原点に立ち返ることの大切さと、今後起こりえる社会の変化に対応できるスタンスを持つことが大切と存じます。



### 2RRC 小河 守 (大阪京橋)

これからは社会課題に対して今まで以上に積極的に取り組み、社会的な影響を持つ活動を展開する必要があります。環境問題、社会的弱者への支援、健康支援など社会のニーズに合ったプロジェクトを展開することで、社会的な課題に貢献できると思います。

また若者の社会参加や社会貢献の形態が多様化している中、ライオンズクラブも若者の参加を促進する取り組みを早急に強化しなければならないと感じております。若者の視点やアイデアを活かし新たなメンバーを迎え入れることで、組織の活性化や持続可能な発展を図ることが重要と考えます。

ライオンズクラブは発足来、地域社会に根ざした組織であり、地域社会との連携を今まで以上に強化し、諸先輩のライオンズマンが築いてこられた「We Serve」の精神をこれからも継続し、持続可能な組織であり続けて社会に貢献しましょう。



### 3・4RRC 坂田 茂樹 (大阪港)

地区ガバナースローガン「温故知新」の類似の言葉に「稽古照今」があります。古(いにしえ)を稽(かん)がえて、今を照らす意です。古き事を考えて、物事の昔あったあり方を知ることは、今を照らし未来を探る手がかりだと諭しています。

ライオンズクラブの昔のあり方とは何でしょう。1917年第一次世界大戦中、全米22のクラブがライオンズ協会を立ち上げました。全米にはそれ以上の何某かのクラブがすでに存在していたことを示唆しています。米国は英国植民地からの独立として、英国文化を濃く受けています。当時の英国貴族文化に影響を受けつつ米国上流階級に根付いていった物にクラブがあったのでしょうか。その貴族的なるものが、神への信仰から慈善へと広がり、時代とともに信仰はヒューマンイズムへと移り、同じく慈善も奉仕へと移ったと思います。

このようにクラブの原型は米国ではなく英国にあるのです。英国でいつ頃、何の目的で、何故の規則を持って、この原型なるものが生まれたのかを知ることは、そのままクラブの本質を語り未来を語ることとなります。

#### 1. 変えてはいけないこと

ライオンズクラブをライオンズ団体に変えてはいけません。クラブの原型本質を忘れないことです。クラブを団体協会と同じと思うところからすべての誤謬が始まります。

#### 2. 変わるべきこと

「数が1番、何でも有りのともかく増強」を改め、「良質こそ数に勝る」を歴史に学ぶことです。会員増強は、急ぎ大事ですが、草刈り場もときより、回り道であろうとも品質の向上です。良質なクラブだけが、良質なリーダー、良質な会員、良質な奉仕、の4理念を用意でき、それが新たな歴史と落ち着きのある会員増強をもたらします。

# RC報告 『社会変化や時代に対応し、ライオンズクラブが変わるべきと思うこと、また変わってはいけないと思うこと』



## 5RRC 山中 悟 (箕面)

まず初めに社会変化状況に関しては、種々あると思いますので省略させていただきます。  
特にこの2年程前から地区ガバナーの運営基本方針の徹底、より具体的な項目が目を引きます。確かに正岡前地区ガバナーのスローガン「KAIZEN ～未来を拓く～」、今年度津田地区ガバナーのスローガン「温故知新 ～つなぐ未来～」、次年度西尾地区ガバナーのスローガン「CHANGEプロジェクト ～未来への挑戦～」と、335-B地区に於いてはスローガンは浸透していると感じます。この流れを絶やさず繋いで行けば必ずや素晴らしいライオンズクラブになる事間違いないと確信いたします。

「輝かしい過去・希望に溢れた未来」描かれているライオンズ記事を胸に誇りと勇気を持ち、努力し、前進して行くことこそライオンズマンと考えます。

会員増強は言わずとも各自頭から離れる事はないと思います、しかし此処で一度立ち止まり自クラブの現況、自分自身を振り返れば、一つの方向性が出てくるのではないだろうか？

⇒以前から考えている事を述べます。新会員が中々増えない状況は今後も続くと思われる。この現況の中で感じた、個人的に反省も含めメンター・メンティーの繰返しの実施を行えば退会者の減少、更にメンバーの量より質を高めて行けば必ずやライオンズクラブの知名度、認識が生まれてくるものと確信いたします。この「量より質」について議論の場を設定していただきたいと考えます。つなぐ未来というキーワードを考えれば、新クラブ設立結成の動きが重要と考えます。この件に関しては北大阪みらいLC・北摂未来LCの結成に動いたのである程度理解力を持っています。

まだまだ有りますが小生の考えの一旦を記述させていただきました。



## 7RRC 洞瀬 佳英 (堺登美丘)

変わるべきを「変化の足」、変わってはいけないを「軸の足」といわれていたことを思い出した。当然ながらどちらも大事であり、要はバランスの問題なのかなと・・・

変わってはいけないことの最たるものは、ライオンズクラブのモットーといわれている「We Serve」の精神ではないだろうか。これが変わってしまうなら、ライオンズクラブの存在そのものが意味をなさなくなってしまう。日頃のGMT、FWT、GLT、LCIFといった毎年大変力が注がれている様々なライオンズの活動はすべて「We Serveー我々は奉仕する」ための手段であり、目的は紛れもなく「We Serve」で、困っている人を助けるための人道支援活動であるはずである。

しかしながら目的がいくら崇高なものであったとしても、組織そのものが発展していかなば当然その「奉仕活動」の質も量も衰退してしまう。目的は変わらずとも、それを達成するための手段は色々変化していくのは致し方ないであろう。いや、変化させていかないと組織はもたないのではないかと・・・

手段とは具体的に言うと、例会や理事会の運営方法や組織の人の見直し・新しい人材(新会員)の発掘・マンネリ化したアクティビティの見直し等が頭に浮かぶが、実際はそれほど簡単なことではない。そうだとすると、それができない組織は間違いなく衰退する側になってしまうことは間違いないのではと思う。



## 6RRC 谷尾 文孝 (守口)

ライオンズクラブも100年を超える歴史があり、先人達も今までも社会変化を経験したうえで時代に対応されてきたことだと思います。

コロナ感染症の影響で各クラブも思い通りに事業が開催できない時期が続き、試行錯誤された事と思います。ライオンズクラブとして奉仕活動(事業)内容を伝えるだけでなく奉仕活動(事業)が生んでいる価値を伝える事でライオンズクラブの地域的存在価値も高まると思います。

また、クラブ事業(奉仕活動)を時代(社会変化)に照らして見直し地域のニーズに合った内容、手法を考えて今までの内容、手法を少し変えて活動していくべきだと思います。

そして、今後も社会変化があっても会員増強・新クラブ結成・支部結成等の活動は変わりなく続くと思いますので、リジョンあるいはゾーンで長期的な特別チームを設置し様々な情報交換等を行うことにより会員増強・新クラブ結成・支部結成に繋がり、また各クラブの活性化にも繋がることではないでしょうか。

変わってはいけないこと。ライオンズメンバーとしてライオンズクラブの行動指針を基に行動しなければなりません。

「スローガン」 Liberty, Intelligence, Our Nation's Safety

(自由を守り、知性を重んじ、われわれの国の安全をはかる)

「モットー」 We Serve(われわれは奉仕する)

「ライオンズの誓い」

「ライオンズ道徳綱領」

ライオンズクラブは単年度制で、クラブ会長(テーマ)も各役員も変わりますが、一人一人の志、L字を胸に変わる事無く「We Serve」。



## 8RRC 笹部 美千代 (岸和田コスモス)

ライオンズクラブが誕生して105年、長い歴史の中で社会情勢や環境の変化を受け止めながら、奉仕活動は続いています。メンバーとなり、「Weの力」を持って、地域に根差したニーズに応える活動を行っています。その理念や活動へ誇りを持ち、仲間と共に楽しむを感じてきたのだと強く確信しています。

今年度、津田地区ガバナーのスローガン「温故知新 ～つなぐ未来～」、その言葉通り、次なる100年を目指し、変革の時期が来たと感じています。

SNSやウェブを活用し、うまく利用することが大切です。ただ、年代層の広いライオンズにおいて如何にシフトしていくことができるかが大きなポイントとなると思います。顔を合わせ、友愛を育むことも大切です。

今年度、5年以内のメンバーで若手交流会を行っています。誰かのために役立ちたいという思いは皆同じです。先日年次大会に参加されましたかと尋ねると、クラブから数名の参加、今までそうしてきたからの返答でした。年次大会の意義を伝えると、そうであればメンバー全員で参加するべきという言葉が返ってきました。先輩ライオンとして本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

地区からアプリやラインが配信されています。とても見やすくイベントや活動も掲示され、毎朝8時には、献血を行っているクラブ情報が流れてきます。GLT委員会もYouTubeで学習の機会を提供しています。多くの情報が発信されています。「We Serve 我々は奉仕する」このモットーを繋げるために、国際協会ではスペシャリティクラブやクラブ支部プログラム、「Your Club, Your Way」といった方針が謳われています。多くのプログラムが開発されても、その受け止め方や理解が大切です。クラブ運営・情報共有方法を全員で話し合い、風通しの良い組織となるのが大切だと思います。ライオンズクラブの活動に誇りを持って楽しむために。

# RC報告 『社会変化や時代に対応し、ライオンズクラブが変わるべきと思うこと、また変わってはいけないと思うこと』



## 9RRC 花田 実(有田)

社会変化や時代に対応した取り組みとして、まず考えるべきはコロナウイルスの影響による世界的な経済の鈍化や、自然災害、食料危機、金融崩壊などによって生じた問題への対応です。このような状況下で、ライオンズクラブは平和で成長経済の時代に合った奉仕のあり方や、それらの優先順位を抜本的に見直す必要があると考えます。失業者や貧困層など、優先的に支援が必要な人々や団体に対して、様々な形で支援を行うことが重要です。

また、地域社会においては、より専門的な知識や技術を持った人材の活用や、社会的企業や団体との協力関係の構築に加え、複数のクラブが協力して地域の課題に取り組むことで、より効果的な支援が可能になります。

また、若い世代へのアピールも重要な課題です。レオクラブ・JCや地域の若い世代と共同でのアクティビティの実施や、SNSや動画配信などのメディアを活用することで、若い世代との接点を増やし、参加意欲を高めることでクラブの発展に繋げていく必要があります。

さらに、新しい災害や危機が起こる可能性があるため、緊急時にも迅速かつ柔軟に対応できる組織力や人的ネットワークの強化が求められます。オンラインでの会議や奉仕活動などを行うことで、より新しい情報ツールを活用することが重要です。

一方、変わってはいけないと思うことは、ライオンズクラブが持つ「人と人とのつながりを大切にする」という精神です。我々は、メンバーそして地域の方々との交流を通じて、地域社会に貢献することがミッションです。この精神を大切にしながら、各クラブが単独ではなく共同で新しい時代に対応していくことで、未来に向けた組織として人々の幸せに貢献することを期待しています。



## 11RRC 川上 耕司(東大阪布施)

2022～2023年度は津田地区ガバナーの運営方針に極力沿えるようリジョン運営をしたいと思い努力してまいりました。地区ガバナー・スローガンと5重点項目のひとつひとつにもゾーン・チェアパーソンとの協力を得て努力いたしましたが、新型コロナウイルスの感染拡大と縮小の繰り返しで最大の成果が得られなかったことには、今更悔いている点多々あります。

「温故知新 ～つなぐ未来～」の言葉は、ややもすれば忘れがちになる先人、先輩達より脈々と受け継がれて来た「奉仕の精神」を意味しており、これを未来に伝えることは変わってはならないことであります。しかしながら、この3年余り多くのメンバーが営んでおられる事業がコロナ禍の影響で窮地に立たされており、こちらからのお願いが、無理強いしたような状態になったりしたこともあり、この点懇親会や食事会等を減らすことなど、社会情勢やその時代に対応しての変化も必要ではないかと思いました。



## 10RRC 前田 雅雄(田辺)

この1年に感じたことは、キャビネット方針、達成目標に対して、各クラブの運営方針や会員数を背景にした奉仕事業や活動で合致した部分と、少なからず対応出来ない事もありました。

10リジョン内には10クラブがあり、職務訪問等を通じて例会運営・活動にも個性があり、長年に亘り積み重ねたものが確実にあるようです。今後も奉仕活動、会員増強に個性を前面に出し継続してもらいたいと希望します。

各種会議の場が大阪市内であり、10リジョンから参加するには、車の場合片道2～4時間を要し移動時間だけでも大きな負担となっています。遠方を理由に会議を欠席するよりも、新型コロナウイルスにより一時期Zoom会議が多用され、これに経験値がありますので毎回でなくとも数回はZoomでの参加を慣例化していただきますよう、ご検討をお願いいたします。(特に2ゾーンの3クラブからの要望)



## 12RRC 角倉 安和(八尾菊花)

社会の変化や時代の変化はほとんどが自然的あるいは必然的に変化していると思っています。

例えばこの3年以上に及ぶコロナ禍において、多数のクラブでリモート例会やリモート理事会・委員会が活発に適用され実行されてきたのではないのでしょうか。このことはやはり社会の「状況変化」「時代に対応」の変わるべきだった事態であり、変わるべきことであつたと思います。

しかしコロナについてだけで見ても感染法上2類から5類へと変わったように「変わる」は実行されている。我々ライオンズについて思うとき、日々の時間の有効利用というようなことは考えずメンバー皆が顔を突き合わせでの意思疎通を計ることが最も重要ではないだろうか。

ライオンズクラブの基本的理念は「We Serve」であるが、ライオンズメンバー同士(同志)の理念は「友愛」と「相互理解」であると確信しています。そして持ち続けなければならないと思っています。

必然的に「変わるべき時がきたら自然的に変わります。」その前に「変わってはいけないこと、持ち続けなければいけないこと」がたくさんあると思います。

『温故知新』いいじゃないですか。

# 各種委員長報告 『社会変化や時代に対応し、ライオンズクラブが変わるべきと思うこと、また変わってはいけないと思うこと』

誌面の都合により委員長のプロフィールを変更しております。



## つなぐ未来特別委員長 内田 陽子 (大阪はなみずき)

今年度「つなぐ未来特別委員会」という地区ガバナー直轄の委員会の長を務めてまいりました。この委員会の大きな役割の一つに、少人数クラブが活力を取り戻す道をクラブメンバーの皆様と私どもの委員会が共に考え模索することがありました。クラブ創立以来、立派な奉仕活動に取り組み頑張り続けてきたものの、諸事情によりすっかり元気をなくされたクラブの悩みは深刻です。解決の糸口が見えず、あきらめのムードに落ち込んでしまいます。残念ながら社会の変化や時代の変化に対応できなかったのかも知れません。

日頃、私たちは例会で「友愛と相互理解の精神を養う」という崇高な誓いを唱えています。今こそ、この誓いを胸に抱き、変化に柔軟に対応できる持続可能なライオンズクラブの在り方を皆で考える時が来ていると思います。また、考えなければ未来につないで行くことは難しいかも知れません。

具体的には、先述した少人数クラブや大きなクラブの融合です。相互理解を深め互いを尊重したうえで、地区全体での思い切ったクラブの再編が挙げられます。クラブを大きくすれば更に強靱なクラブに成長できるでしょう。同時に、運営面での合理化も可能でしょう。また、新時代に合った新しい感覚のクラブの誕生も期待されます。誕生により地区内に新しい風が吹くことでしょう。企業が生き延びるために再編を繰り返し同時に新しい芽を育てていく姿勢を見習う必要があると思います。

より充実した、より大きな奉仕活動で社会に貢献するという偉大なライオンズクラブの目標。この目標に向かい、ロードマップを作りメンバーが一丸となり取り組めば、明るい未来につないで行けるものと思います。



## 指導力育成 (GLT) 委員長 角 竜一 (泉佐野中央)

1917年6月7日メルビン・ジョーンズ氏により、アメリカ・イリノイ州・シカゴにおいて第1回会合が開かれ、ライオンズクラブ協会が設立されてから106年が経過し、日本のライオンズクラブが認証されたのはその35年後の1952年3月5日、まだアメリカの占領下にあった日本に、フィリピンのマニラライオンズクラブのエクステンションにより、東京ライオンズクラブが誕生して、71年が経過しました。その後の日本は、高度成長期により右肩上がりにクラブ数及び会員数も増加し1991年までの約40年間をピークにバブル経済崩壊とともに、会員数が右肩下がりに転じてしまいました。

高度成長期における右肩上がりの時代においては、多くの方がライオンズクラブのステータスにあこがれを感じ、入会を希望し、入会することが難しかったというお話も聞いたことがあります。しかし、バブル経済が崩壊し、右肩下がりの経済に転じた現在においては、ライオンズクラブにおけるあこがれは感じているものの、自分自身の生活が精一杯で、なかなかライオンズクラブに入会し、奉仕活動をするという気持ちになれない方も多いように感じております。

そんな中、時代に合ったライオンズクラブになるためにも、ライオンズクラブが変わるべきと思うこと、また変わってはいけないと思うことは、2022年6月30日ライオンズ必携によれば、世界においては200以上の国または領域、50,077のクラブ数、1,374,497人の会員数、日本においては、35準地区、2,805のクラブ数、98,572人の会員それぞれが、地域に見合った奉仕活動をする事や、楽しんで奉仕活動をする事は、大変大切な事だと思います。しかし、楽しければ良いとか、自分が楽しければ良いとかではなく、水面に一石を投じた時に広がる波紋のように、まずは、自分を大切にすることが一番大切ですが、その自分を大切にしてくれる人を大切に。そして、その自分を大切にしてくれる家族を大切に。そして、その自分や家族を大切にしてくれる地域を大切に。といったような奉仕活動が大切だと思います。

そのために何よりも大切なのは、ライオンズクラブのメンバー、1人1人が、ライオンズ必携並びに各クラブの内規をしっかりと理解して、何が良く、何が駄目なのかを再認識し、右肩下がりのこのような時代でも、ライオンズクラブに入会して1人でも多くの方が、共に奉仕活動をしたいと思ってもらえるような、ライオンズクラブ運営をする事が大切だと思います。



## 次世代リーダー育成セミナー・会則委員長 藤田 嘉宣 (岸和田)

コロナも5類に移行し、街はかつての活気を取り戻そうとしています。コロナによって、人々の対面交渉は困難になり、Zoomでの会議や働き方改革といった在宅勤務が増えるなど、様々な変化がありました。例会もZoomになったり、中止することが増えました。しかし、コロナが収束に向かうとZoomでの会議はあまり聞きません。積極的に会議場に足を運び、仲間と談笑し、酒を酌み交わす。私達に必要なのは、家族、友や仲間、自分の周りにいる人と楽しく過ごすことなのではないかと思えます。

私は1年間「ライオンと呼ばれる人」を念頭に、次世代リーダー育成セミナーを開催してきました。ライオンとして大切なこと「常に微笑みをたたえ、人類を愛し 知識人の尊敬を集め 幼児たちに親しまれる人」でなければならないし、そういう人を目指してクラブ活動をしていきたいと考えています。

人間の根幹は人との交わりであり、より良い人間関係の作り方を学ぶためにライオンズクラブに入会したと私は思っています。社会の変化や時代への対応は、その人達と共に考え作り上げていけると確信しています。

ライオンズクラブが変わってはいけないこと、それは「ライオンズクラブ国際協会の目的」「ライオンズ道徳綱領」「ライオンと呼ばれる人」を念頭に置いた活動であり、AIはこれからどんどん台頭してきますが、共に笑い、語らい、考える、人間らしさを持つことに当たることだと思います。

人間力を磨く。すべての基礎は、ここにあると私は思っています。



## 会員増強 (GMT) 委員長 麻生 真司 (大阪島之内)

コロナ禍も収束し、街には賑わいが戻りすっかり何も無かったかのようです。ただ大きく世の中が変わり、勿論ライオンズクラブにおいても時代の変遷に追従しなければ存続して行くことが難しく感じています。

ただ我々には素晴らしい奉仕活動を実践していく重要性和、知性を高め友愛と相互理解を共有する仲間がたくさんいます。どんなに世の中が変わろうともプライドを高く持ち、この崇高な理念は受け継いでいくべきものです。

各クラブ会長を中心とした会員満足度の向上や、楽しさや喜びの共有がとても重要です。“楽しさや喜びを実感できないクラブには人は集まらないのです！”

テクノロジーが進み、リアルとリモートが混在する中、人間であるべくリアルでの対話の重要性や価値観を重視すると共に、オンラインやリモートの融通性・利便性を駆使し双方の使い方やルールの見直しが不可欠と考えています。常に進化し続けるべきです。

まだまだ身の回りには、お声掛けできていない素晴らしい方々がたくさんいらっしゃいます。アスク1招待例会や、ノンライオンが参加いただけるイベントやアクティビティなど様々な機会を通じ、今こそ“世界一の奉仕団体であるライオンズクラブ国際協会335-B地区”への積極的なお誘いお声がけを行い、未来に向かって本当の意味での素晴らしいアクティブメンバーを増やそうではありませんか！何卒、宜しくお願いいたします。

# 各種委員長報告 『社会変化や時代に対応し、ライオンズクラブが変わるべきと思うこと、また変わってはいけないと思うこと』

誌面の都合により委員長のプロトコールを変更しております。



## 奉仕 (GST)・環境保全・献血委員長 堀 典之 (茨木)

### 《変えるべき点》

- 金満体質の改善  
奉仕活動において、寄付行為のみの活動に終始することを改め、広がりのある奉仕活動を展開する
- 組織(地区)においては新しい人材の発掘と登用を進める  
各委員会が地区委員に自発的に出ていただける、興味をもってもらえる委員会運営を展開する
- 地区の奉仕活動は各クラブ、ゾーン、リジョンが主体で、地区はバックアップ体制を整える

### 《変えてはいけない点》

- 社会を良くしようとする信念
- メディア、SNSを駆使した渉外、広報活動



## 会員満足度向上委員長 南 醸人 (堺陵東)

題名通り、オンラインとオフラインの両輪の生活が、ビジネス、私自身の生活共に行われている今日この頃です。

オフラインしかなかった世の中が大前提だったので「オンラインはココがオカシイ、物足りない」になるのは当たり前だと感じています。ライオンズ活動におかれましての変わるべきところは、軽度なものと急ぎのもの、至急打ち合わせを要すものはオンラインが良い機能を果たすと考えています。変わってはいけないものは、「先輩ライオンからの申し送りや文化、規律はもちろんのこと、対面で顔を合わせた姿勢、話しを聞く際の姿勢」だと僕は感じています。津田地区ガバナーの温故知新そのものです。



## 家族・女性・支部会員増強 (SPC・FWT) 委員長 山口 弥生 (大阪狭山)

変わるべきところは、ジェンダーに関する意識改革です。

国際協会の一員として持続可能な開発目標 (SDGs) の17の目標を達成することを勧めています。ですが、特に5番である「ジェンダー平等を実現しよう」に関して、日本は世界でも遅れを取っています。誰一人置き去りにしないためにも重要とされている目標でありながら、335-B地区では今年度新たに2クラブが混成クラブとなりましたが、152クラブ中30クラブにまだ女性正会員が在籍していません。多様なインパクトのあるアクティビティを行うためにも、色々な視点から企画立案していけるようジェンダーレスへの意識改革が早急に必要だと思います。

地区内44のクラブ支部においては、ほぼ混成クラブとなっています。若い世代においては、ジェンダーレスが浸透しているからではないでしょうか。世界最大の奉仕団体である我々ライオンズクラブ、その中でも日本で最大のメンバー数である335-B地区は率先してジェンダーレスを行い、Weの力を高め奉仕するべく会員増強を行いたいものです。

変わってはいけないと思うことは、「ライオンと呼ばれる人」となることだと思います。

ライオンズに入会したときに宣誓をします。「ライオンズの誓い」にある友愛と相互理解の精神が薄れているように感じる昨今、ライオンズクラブ国際協会の使命声明文を遂行するにあたって、ライオンズ道徳綱領を守り、常に自身が「ライオンと呼ばれる人」を目指し精進・実践できるよう正しく理解することが重要です。L字のマークを誇りに「ライオンと呼ばれる人」を目指すことはライオンズクラブ国際協会があるかぎり不変であらねばならないと思います。



## ライオンズクラブ国際財団支援 (LCIF) 委員長 齊藤 正実 (大阪西)

前年度から今年度の2年に亘りLCIF委員長を拝命し、私なりに役職を全うしてきました。前年度はコロナウイルス感染拡大の中での制限された活動でしたが、為替が安定していたので各クラブの皆様から多くの寄付を頂きました。しかし、昨年の2月24日に勃発したウクライナへのロシアによる軍事侵攻が起こってからは、為替が不安定になり円安ドル高で前年度に比べ寄付額が少なくなりました。

一方、企業寄付は今年度からは円建てで一口10万円になり、為替に左右されなくなり企業寄付は昨年より多くの寄付を頂きました。

個人寄付・クラブ寄付や地区寄付も為替の不安定な時は円建てで寄付を頂く方が、安心して寄付をしていただけたと思います。

現在の一般社団法人日本ライオンズが将来的に公益社団法人日本ライオンズになればLCIFの寄付は税控除対象になります。

その時も今と同じようにドル建てで寄付をしていただくのではなく、円建てで寄付していただく方が為替に左右されることがなく安心して寄付ができるのではないかと思います。

ライオンズクラブメンバーは地域への奉仕活動と、世界に目を向けての奉仕活動の両方をする事は根本であり普遍だと思いますが、そのスタイルは時代に合わせて変わっていくべきと考えます。



## アラート委員長 中田 勝利 (大阪帝陵)

今回のテーマは、とても難しいです。あくまでも、私の個人的な意見として述べさせていただきます。

ライオンズは立派な組織で、素晴らしい理念のもとに活動しているので、個人的には何も変えなくても良いと思います。しかし、私の所属するクラブを例にとっても、年々会員は減るばかりで、勧誘しても若いメンバーはなかなか増えないのが現状です。その事を考えると、やはり何かを改革していかないと若い世代は増えないのかなと思います。現在の経済情勢を考えると、やはり会費は減額したほうが会員は増えると思います。

あと、大阪阿倍野LCや大阪淀川LCが開催されている音楽フェスティバルのように地域の老若男女全ての方々が楽しめる、地域に根付いた行事がもっと増えればノンライオンの皆様の中で、ライオンズの活動に関心を持ち、入会くださる方も増えてくるのではと思います。

以上が、会員増加に結び付くのではと私が考えたことです。

次に、現在の活動で思う事を述べます。

コロナ禍で、リモート会議が定着してきましたが、私は、やはり大事な話し合いは、実際に相手の顔を見て、じっくりと話し合うことが一番良いと思います。

あと、男性のクラブや女性のクラブは、無理に混合クラブに変えなくても良いと思います。それぞれ培ってきた伝統を大切にすべきかと思います。しかし、これはあくまでも個人的な希望なので、もし事情で混合クラブに変わったとしても、メンバーの皆様のご尽力で素晴らしいクラブになると思います。

結論として、ライオンズは何も変える必要のない素晴らしい組織だが、ノンライオンの人々に関心を持ってもらうためには、何をすべきかを模索しながら活動するべきだと思います。



# 各種委員長報告 『社会変化や時代に対応し、ライオンズクラブが変わるべきと思うこと、また変わってはいけないと思うこと』

誌面の都合により委員長のプロトコールを変更しております。



## 広報 (MC) 委員長 徳山 性培 (東大阪河内)

自クラブの例会はZoomからのスタートでした。利用できない人には、自宅訪問して利用できるようお願いしました。Zoom例会に参加できた先輩メンバーは、想像以上に楽しそうで、例会での発言が増えました。SNSへの参加は、ただただやる気があれば不得意を解消できると理解しました。クラブの高齢者は、SNSについて意外とご自分の息子や孫に相談できない変なプライドが邪魔をして、聞けない高齢者が多数おられました。それならば、それこそ自クラブの若手を通じて、もしくは、例会にかこつけて講習をするなどが必要です。プライドのあるライオンズマンにとっては一石二鳥です。クラブ内のコミュニケーションが成功の秘訣です。

変わるべきことは、周年や会長の時など何か「物」を残したいのか、若者に理解できない「寄贈」です。時間とお金があるなら社会奉仕やアクティビティに費やすべきだと思います。

他クラブへの例会訪問は必要だし、受け入れも必要です。自クラブだけの行動では、クラブの体質は変わりません。

変わらず続けることは、例会への参加。必ず例会へ出席する事です。そのためにも楽しい例会、その後の懇親会も大事です。例会でメンバー全員が、一言でもおしゃべりすることも大事だと思います。



## レオ委員長 岡田 隆彦 (藤井寺)

この3年間コロナでレオ活動(新入生勧誘、例会、ボランティア等)が全くできない状態になり衰退しました。昨年の4月には1学生レオクラブが4回生4人となり、廃部の危機に陥りましたが、1年間のテコ入れで現在の20人位まで復活しました。が、この3年間のブランクで活動が手探りの状態です。スポンサークラブ様、顧問様にはレオ活動のご指導よろしくをお願いします。

新規レオクラブ立ち上げには1~12R LCIFセミナーと共に『学校関係者の紹介』をお願いに参りました。今年度、新規レオクラブは誕生までには至りませんが、2~3新しい芽が見えてきました。次年度は40年前にレオ活動をしていた山際委員長のもと、新規レオクラブ誕生、元レオでライオンズメンバー同志が中心となって新しいレオ活動をされると思います。

1年間誠にありがとうございました。



## 国際関係・大会参加委員長 下川 好隆 (堺)

韓国・済州島で開催された東洋東南アジア・フォーラムは、数年ぶりの安全リアル開催となりましたが、コロナ禍で開催方法の決定に時間を要したので、案内が非常に遅くなり、参加者を募るのに時間がかかりました。しかし、国際理事立候補の件もあり、たくさんのメンバーに参加をいただきました。ポスト国際大会も同様でございます。

次年度は当地区から国際理事を輩出している責任もあるので、国際大会、東洋東南アジア・フォーラム共に早い段階で案内をして、たくさんの方々に参加いただきたいです。

案内は、東洋東南アジア・フォーラムは4カ月前、国際大会は半年前には案内できるようにした方が良くと思いますので、引き継ぎしたいと思います。



## ライオンズ慰霊委員長 中村 泰介 (南部)

1年で最も美しい季節を迎えた、弘法大師の聖地高野山におきまして、5月21日第48回物故ライオンズ慰霊祭を開催いたしました。

津田地区ガバナーをはじめ、ご遺族の皆様、地区役員、各クラブ代表など多数のご参列を賜わり、77名の御霊を合祀いたしました。

多大なるご協力を賜りましたメンバー各位に心より御礼申し上げます。

過去4年間は、コロナ禍により中止や縮小といった開催でありましたが、今年度は通常通り開催することができ、委員会のメンバー同一一致団結しておもてなしすることができて喜んでおります。本当にありがとうございました。

当地区にしかないこの慰霊祭を大切に受け継いでいきたいと思っております。



## 青少年育成(ライオンズクエスト)・薬物乱用防止委員長 吉野 充彰 (枚方ローズ)

ライオンズクエストはLCIFの主要な青少年教育プログラムであり、その心理社会的学習カリキュラムは、生徒たちが生きていくスキルを身につけ、いじめや薬物乱用を避けられるようにしています。

子どもたちの人生の師である保護者・教師・PTA・部活コーチなど、コミュニティ内の少なくとも1人の大人との積極的なつながりは、生徒の社会的感情の発達を強化し、学業成績を向上させ、中退率、いじめ、その他の多くのことを減らすことができます。

10代の若者の3分の1が過去1年間にいじめられたと答えています。50%以上のアイデンティティに基づくいじめでは、すべてのいじめ及びネットいじめのインシデントの半分以上を占めています。調査対象の10代の若者の40%近くが孤独や疎外感に苦しんでいるときに、親と話すのが難しいと感じています。

ライオンズクエストプログラム普及活動は、いじめ防止、意図的なインクルージョン、青少年の精神的健康に協力することで、子どもたちが想像する未来を創造できるよう支援することができます。

やさしい世界は私たちから始まります。



## 国際青少年交換キャンプ(YCE)委員長 今村 雄二 (八尾中央)

会員一人一人がライオンズクラブの価値を共有して、地域の人々に広く伝えていく事が大事であると共に、3年間のコロナ禍で私たちが限られた条件の中で「献血活動」は継続して行われ、今や無くてはならない重要な役割を果たしている。こういった活動を地域社会に広く伝えて、地域社会に深くつながり、クラブメンバーが意義を感じ奉仕活動に重きを置くクラブが、これから活性化されるクラブになると思います。これらの事業を基軸に日本や地域社会が新たに必要とされる奉仕活動があると感じています。

ます。

その中でも人口減少、少子化などの問題を抱える日本であるが、これからの日本の将来を担う子供たちへの支援も早急に必要とされる事業と思います。「子育て支援」活動や、学校現場では中々解決できない「いじめ問題」また「発達障害」の子供たちも驚く程の数字に膨れあがっているのが現状であります。これらの問題にライオンズクラブは啓発活動や講演会など取り掛かる時期にきていていると感じています。

またYCE活動においても今や気軽に海外旅行ができ、地方であっても観光を楽しむ事ができるようになっている。3年間のブランクがターニングポイントだと考えております。ホームステイの経験は大切な事業の過程ですが期間の短縮やホスト家庭での過ごし方など指針も必要と思われる。また「国際ユースキャンプ」においても観光中心のものから日本の歴史や文化を視察や体験を通して「日本を学べるキャンプ」に変化させていく事が重要だと考えています。



## 年次大会委員長 坂井 幸司 (大阪桜之宮)

5月8日に新型コロナの法律上の位置付けが「5類」に引き下げられ、ゴールデンウィークでは各地で人・人の賑わい、ようやく以前の生活に戻ってまいりました。

コロナ以前の生活に戻ってきたのは、ある意味いいことではあると思いますが、ただ決してこのウイルスが消えてしまったわけでもなく、注意して生活していきたいものです。

ここ3年間で培ってきた生活様式、WEB会議、リモートでの仕事と変革はあるものの、私たちが行う『We Serve!』は、より人と人を身近にとらえ、人と人のつながりを求めて進めていきたいものです。

今後も『温故知新』先人たちが行ってきた良いものを引き継ぎ、ライオンズライフを進めてまいりましょう!

# 第48回物故ライオンズ慰霊祭

5月21日(日) 高野山大霊園



5月21日(日)「物故ライオンズ慰霊祭」を3年ぶりに通常開催いたしました。ライオンズクラブには、北海道から沖縄まで全国35の準地区がありますが、その中で335-B地区だけが持っている立派な慰霊碑が和歌山県の『世界遺産高野山』にあります。

今年度で第48回を数えるこの物故ライオンズ慰霊祭。今回は77名の物故ライオン並びに推薦物故者のご芳名を刻銘版に刻み奉納いたしました。式典のご遺族総代には、故L高橋祥治元地区ガバナーの奥様L高橋かず子にお願いをいたしました。現在までにお祀りした物故ライオンは、第1回から今回の第48回まで5,933名となりました。

この物故ライオンズ慰霊祭が滞りなく開催できましたのは、中村ライオンズ慰霊委員長をはじめライオンズ慰霊委員並びに実行委員の皆様のご努力と、慰霊碑をお守りくださっている伊都高野山LCのご協力によるものであります。本当にありがとうございました。

慰霊碑に眠る先輩ライオンの皆様に、これからもライオンズ道に精進し、335-B地区を益々活気あるものに発展させていくことをお誓いし、慰霊祭は終了いたしました。



# 335複合地区MCシンポジウム

3月20日(月)

ホテル日航大阪



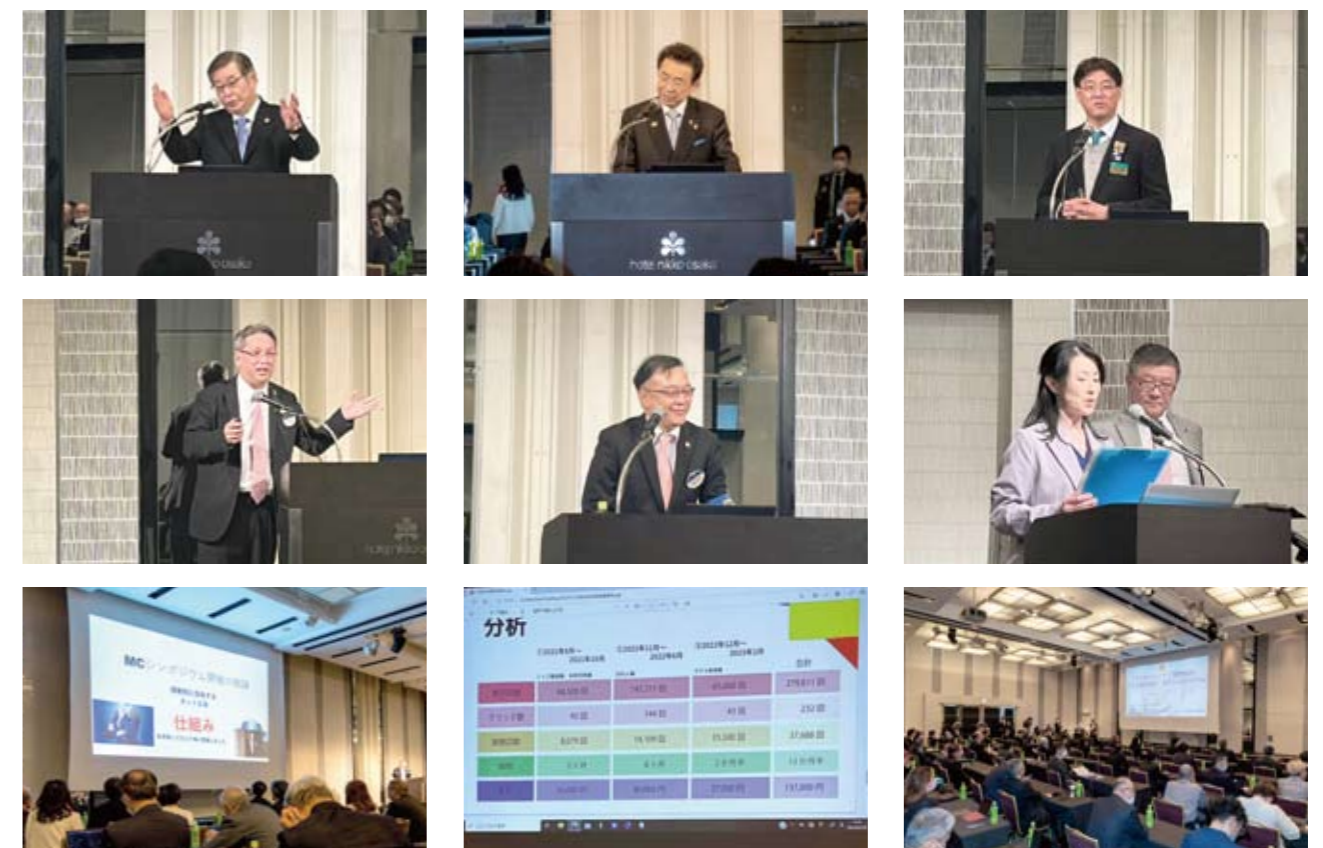
335複合地区において初めての試みとして「MCシンポジウム」を開催いたしました。

今回のMCシンポジウムは335複合地区MC・IT委員長、前地区ガバナー・名誉顧問会議長であるL橋崎良治(姫路大手前)と335-B地区広報(MC)コーディネーターのL浦吉彦(白浜南)の企画により実現したものです。

335複合地区内各地区の地区ガバナーをはじめ、各地区より今年度・次年度MCに関連する役職のメンバーに出席していただきました。

「何事においても発信しなければ伝わらない。使わなければ損!」という言葉が、印象的でした。各地区の広報担当の皆様、会員増強に必ず役に立ちますので是非チャレンジ宜しく願いいたします。

当日出席くださいましたメンバーの皆様本当にありがとうございました。335複合地区MC・IT委員会及び335-B地区広報(MC)委員会よりお礼申し上げます。



# 335複合地区アラートセミナー

3月27日(月)

ホテル日航大阪



335複合地区アラートセミナーが3月27日、ホテル日航大阪において開催されました。災害被害に遭われた地区のアラート担当者にお越しいただき、災害により学んだことや反省すべきこと、備えることなど講演され有意義なセミナーでありました。

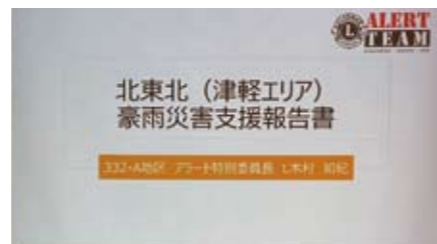
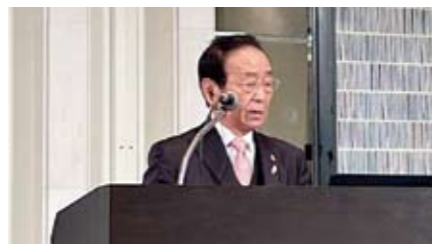
まず、「ライオンズクラブとアラート活動」について、日本ライオンズアラート委員会シニアアドバイザーであるL柿原勝彦よりご講演がありました。そこで日本ライオンズは、全国社会福祉協議会と災害支援協定書を締結し、緊急災害支援金（アラート準備金）を備蓄し、災害時に即座に拠出出来る体制を取っていることが説明されました。

次に事例の発表として、332-A地区アラート特別委員長のL木村知紀（青森ZELo）より2022年8月青森大雨被害についてご報告があり、災害が発生するとクラブ→リジョン→地区→複合へと支援の流れをご説明されました。

続いて、336複合地区アラート委員会 B地区担当運営リーダーのL眞治憲之（倉敷天領）より2018年7月倉敷市真備豪雨災害のご報告がありました。「受援から支援へ」という言葉が印象的でした。

最後に、日本ライオンズアラート委員会アドバイザーのL坂本恵市（松原）より「335-Bアラートメンバーへのメッセージ」として、南海トラフ地震の準備と防災訓練や連絡網の構築であったりと助ける側の準備をしておくようお願いされました。

自身の命を守りながら、被災者を助けることが重要で、ライオンズクラブとして何が出来るか改めて考えさせられたセミナーでした。



投稿レポート

# ゴルフの楽しさ知って！ ジュニアゴルファー育成



豊中中央ライオンズクラブ



豊中中央ライオンズクラブ(57人)は今年度に入り、吉村正年会長の熱い思いを受けて、ジュニアゴルファー育成事業に着手した。年度初めの2022年7月から実行委員会をつくり、半年以上をかけて準備を進め、3月28日に「第1回リアルみんゴル!～親子で楽しもう箕面ゴルフクラブ編～」の開催にこぎつけた。豊中市と豊中市教育委員会の後援、また箕面ゴルフ倶楽部、ゴルフスクールを運営する(株)ゴルフ総合研究所の協力も得ることができた。ジュニアゴルファー育成事業の趣旨は、子どもたちにゴルフの楽しさを伝え、いずれはプロゴルファーが誕生するような道筋を作ろうというもの。この催しでゴルフを体験して興味を持ち、ゴルフを始めたいという児童には、当クラブが協賛してプロの指導者による半年間の無料レッスンを受講してもらい、子どもたちを育てていこうと考えている。今回の対象は小学新1年生から新6年生とした。第1回ながら反響は大きく、40人を超える児童がエントリーした。

会場は箕面ゴルフ倶楽部。子どもたちにゴルフのルールやマナー、注意事項などをしっかり伝えてからいくつかの組に分かれ、まずはパター練習やドライビングレンジ(打ちっぱなしの練習場)での練習を行った。それから各組にライオンズ・メンバー2人以上が付き添い、スクランブル方式(組対抗)でのプレーとなった。14時からほぼ貸し切り状態でのスタートだ。

子どもたちはゴルフコースを元気に回った。ミスショットをして地面をえぐった時には、目土(めつち)を入れて修復する理由やその方法の説明を神妙に聞いて実行していた。グリーン上では走らない、芝を傷付けないといったルールもしっかりと守ってプレー。終わった組からパター練習場に用意していたパットパットゴルフ(パターゲーム)を楽しみ、みんな笑顔で帰っていった。第1回ということもあり我々も学ぶことがたくさんあったが、大成功で終わることが出来た。

この事業が児童のゴルフ人口の拡大に寄与し、参加した子どもたちの中からプロゴルファーが誕生することを夢見て、次年度以降も継続していきたい。

